



2026 年 7 月 16 日

各 位

会 社 名 アーキテクト・スタジオ・ジャパン株式会社

代表者名 代表取締役社長 丸 山 雄 平

(コード番号：6085 東証グロース)

問合せ先 執行役員 管理本部長 兵 庫 久 昭

(TEL. 03-6262-1256)

上場維持基準（流通株式比率、純資産基準）への適合に向けた 計画に基づく進捗について

当社は、2026 年 5 月 29 日付「上場維持基準（時価総額）への適合及び上場維持基準の適合に向けた計画（流通株式比率、純資産基準）に関するお知らせ」にてお知らせしておりましたとおり、2026 年 2 月 28 日時点において、グロース市場の上場維持基準のうち、流通株式比率基準と純資産の額基準について適合しない状態となっております。2027 年 2 月期末における上場維持基準の適合に向けた計画に基づき、下記の通り 2027 年 2 月期第 1 四半期の進捗状況をお知らせいたします。

記

1. 2027 年 2 月期第 1 四半期決算の状況

2027 年 2 月期第 1 四半期の売上高は 80,827 千円（前年同期比 62.9%減）、営業損失は 179,464 千円（前年同期営業損失 200,393 千円）、経常損失は 178,636 千円（前年同期経常損失 208,622 千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は 179,601 千円（前年同期親会社に帰属する四半期純損失 130,596 千円）となりました。2027 年 2 月期第 1 四半期末において、純資産は△402,783 千円（前期末時点における純資産は△223,181 千円）となりました。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の進捗状況

（1）流通株式比率基準への適合に向けて

・個人株主の増加：当社は 2026 年 6 月 5 日付にて事業計画及び成長可能性に関する事項【中期経営計画フェニックス】（以下、「中期経営計画」といいます。）を発表いたしました。昨年 11 月の経営体制の刷新以来、グループ会社の切り離しや従前の事業の取りやめ、セグメントの見直し等を進め、それらリストラクチャリングに伴う特別損失の計上等により、決算上の負担は多大なものとなり、債務超過に陥る大きな要因ともなりました。適時開示等においては、これらの必ずしも前向きとは見られない情報ばかりを発表させていただいておりましたが、中期経営計画においては、新たなセグメントと今後の当社の主軸となるべき環境関連事業の内容等、当社の将来の方向性についてご説明をしており、当社の将来像について多少なりともご理解いただく一助になったのではないかと考えております。当然これだけで十分とは考えておらず、今後も個人株主の皆様にご当社の方向性についてわかりやすく情報発信を行ってまいりたいと考えております。

(2) 純資産の額基準への適合に向けて

- ・事業利益の確保：前述の通り新事業セグメントで事業展開を進めておりますが、2027年2月期第1四半期においては、いまだ営業活動の効果が顕在化しておらず、赤字体質を脱するには至っておりません。引き続き事業利益確保を最優先として、営業活動に注力してまいります。
- ・財務体質の改善：当社事業にシナジー効果のある外部企業との資本・業務提携を進めることを目標としており、まだ実現には至っておりませんが、積極的に該当企業の選定を進めてまいります。

3. 今後の方針

2026年5月29日付「上場維持基準（時価総額）への適合及び上場維持基準の適合に向けた計画（流通株式比率、純資産基準）に関するお知らせ」に記載のとおり、引き続き個人株主の増加や事業利益の確保に努めるとともに、財務基盤の整備等の施策を検討し、2027年2月期末までに上場維持基準に適合することを目指してまいります。また今後におきましては、四半期毎に当該取り組みに関する報告を実施いたします。

以 上